

鳥インフルエンザのおはなし	1ページ
一見先生 退任のごあいさつ／医療福祉相談室だより／軽装の励行のお知らせ	2ページ
「紫外線とUVケア」／「糖尿病教室7月」のお知らせ	3ページ
三重病院あるあるクイズ⑦／アレルギー教室のクッキング／外来からのお知らせ／外来診察のご案内	4ページ



鳥インフルエンザのおはなし



インフルエンザウイルスには、A型、B型、C型が存在しますが、毎年冬に流行するのは、A型とB型で、数十年ごとに新型ウイルスが出現して、パンデミック（世界的に流行）を引き起こすのは、A型ウイルスです。A型のインフルエンザウイルスはもともと鳥のウイルスで、中でも水禽（みずとり）、特にカモがA型ウイルスの起源とされており、現在知られているすべてのウイルスを保有しています。現在のヒトのインフルエンザウイルスもすべてはカモからヒトの世界に入ってきたものです。インフルエンザはヒトの病気ですが、もともとは鳥のウイルスだったわけで、鳥インフルエンザが本家です。ちなみに、鳥インフルエンザという病名は鳥の病名で、人間がこのウイルスにかかって病気になった場合には（ヒト）鳥インフルエンザウイルス感染症と言います。

A型のインフルエンザウイルスは、表面にあるヘムアグルチニン(HA)とノイラミニダーゼ(NA)によってさらに細かく分けられており(亜型と呼びます)それぞれ16種類と9種類あります。中国で問題となったH7N9亜型というのは、HAが7番でNAが9番のA型インフルエンザウイルスという意味です。カモでは、通常インフルエンザウイルスは腸管に存在し、カモ自身には病気を起こしませんが、ウイルスが鶏に感染して鶏に慣れると病気を起こすようになります。多くは病原性が低く(低病原性)、鶏の症状はとても軽いのですが、一部のウイルスは非常に病原性が強くなって殆どの鶏を死に至らしめるようになり、これは

高病原性鳥インフルエンザウイルスと呼ばれます。

本来、鳥のインフルエンザウイルスはヒトに感染しません。これはヒトのインフルエンザウイルスと鳥インフルエンザウイルスが感染するときに結合する受容体(レセプタ)が異なるためです。ヒトのインフルエンザウイルスは、ヒトののどにあるヒト型のレセプタに結合して感染します。このレセプタには鳥インフルエンザウイルスは感染できないのですが、ヒトも肺の奥深いところには鳥インフルエンザウイルスのレセプタを持っています。こういうわけで、万が一鳥インフルエンザに罹っている鶏と接触したり、あるいは鳥インフルエンザウイルスに感染して重症の肺炎を起こしている人と濃厚に接触して、ウイルスが肺まで入ってしまうと感染します。もともと鳥インフルエンザウイルス

は肺など温度の高いところで増殖できるので、肺で爆発的に増殖して肺炎を起こして重症になります。今回中国の南部で発生したH7N9鳥インフルエンザウイルス感染症も最初に鶏でウイルスが蔓延して、感染した(症状はほとんどない)鶏を市場で売っていたために(写真)、そこに行った人々がウイルスを吸い込んで病気になったのです。中国政府はこのような

